

カトリック 仙台教区報

2004年5月2日 No.157

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

どうしてカトリック教会は 司祭を必要としているのか

仙台教区 司教 溝部 脩

現在司祭になる人がいないと嘆く声をたくさん聞きます。これに対して何と答えたら良いのでしょうか。多分司祭職とは何かがよく分かっていることと起因することが多いという気がします。

と血に変えます。「これはわたしの中からである」と司祭が唱える瞬間、パンはキリストのからだに変わるのです。これも司祭だけしかできません。カトリックでない他の多くの教会では、これは単なるシンボルであり、最後の晩餐を記念して晩餐式を行うと解釈します。従って司祭でない信徒が行うことになり

司祭職は秘跡とつながっています。従って秘跡ということをよく分かなければ、司祭職も分らないし、ひいてはカトリック教会という意味も分かりません。七つの秘跡がありませんが、ここではミサ聖祭と司祭職ということに問題を絞って考察しましょう。

「ミサはいけにえである」、これがミサの基本です。奉献文の最初に、「まことにとうとくすべての聖性の源である父よ、いま聖霊によってこの供え物をとうといものにしてくださ



オタワ愛徳修道女会 本部修道院聖堂

い」と唱えながら、司祭は手を伸ばして聖霊を求め祈りをします。その祈りと按手を通して、聖霊が祭壇の上に降ってくるのです。司祭の祈りは聖霊を呼び起こす力をもっています。これは司祭しかできません。それから祭壇にあるパンとブドウ酒をキリストのからだ

祭の手を通してキリストのからだがあるとは信じていないからです。万民祭司ということばで彼らはそれを表します。私たちは、司祭のみこの力があると主張しています。けれどももともと大切なことは、キリストのからだがあることであって、皆がそれを頂くことではありません。祭壇にあるキリストを司祭は

父なる神にささげること、これこそミサの大切な要素です。「いのちのパンとすくいのかき杯をささげます」とすぐに続いて唱えるのです。十字架につけられたキリストを司祭は父に見せて、罪と闇にうごめく人類のためにいけにえとしてささげるのです。神様はおん子のいけにえをご覧になって人類に必要な恵みを下さるのです。その時ミサに与る全員は司祭とともにキリストをいけにえとしてささげるのです。

カトリック教会に司祭が居なければ、ミサのいけにえをささげることができません。ということとは、カトリック教会がなくなることを意味しています。今私たちが必要としているのは、ミサをささげ、秘跡を執行できる司祭なのです。聖霊を呼び寄せ、主のからだをつくり、キリストを神にささげる、こんな偉大な仕事がこの世界のどこにあるでしょうか？心ある若い人たちが、自分にもその可能性があることを一度はしっかりと考えてみて下さい。

塩と光

*エルサレムからエマオへ逃亡したクレオパと、もう一人の弟子が、復活させられたイエスに気づくまでの歩みを、たどる必要があります(ルカ24:13 35参照)。*彼らの目がさえざられていたので、一緒に歩いてく

ださった方が、イエスだとは分からなかったと、ルカは報告しています。きつと、「人間の思い」にとらわれていたので、神のなさった救いのわざに、気づくことが出来なかつたのでしょうか。*生きておられるイエスを、目の前にしながら、ご遺体を取り去られしまったと、動転している彼らは、こっけいでもありません。とにかく、彼らの信仰の眼を開くために、イエスは聖書全体にわたって、ご自分について書かれていることを説明なさったのです。聖ヒエロニムスも、「聖書を知らないことは、キリストを知らないことである」と、明言しています。*イエスがパンを裂いて、彼らに渡された瞬間、彼らは復活のイエスに、初めて気づくことができました。ミサの「感謝の典礼」において、復活の主の現存を体験できるのは、弟子たちがそうであったように、「ことばの典礼」が、大切な準備となつて

(博)

第2回 仙台司教区活性化のための研修会

「ミサへの生き生きとした参加」

活力源となるミサに生き生きと参加するための提言

仙台教区長 溝部 脩 司教

この研修会は、主日を祝うミサが信仰生活の活力の源となっているかどうかを振り返り、小教区共同体の中でどのような働きをする事が小教区の活性化につながるかを意識することを旨として、各県ごとに司教の基調講話と、グループに分かれての分かち合いの形で行われた。主催は教区司牧評議会。3月14日青森県、2月15日岩手県、2月22日宮城県、4月25日福島県で開催された。

【司教講話要旨】
「ミサ」とは何であるかをもちと知ることから始める必要性があると思います。

・ともにささげるミサ
大切なポイントとは「ともに」と言つこととです。ミサはそこに集まった人みんなでささげるものです。

1. ミサの各典礼に積極的に参加する。
ミサの構成を知り、その部分にどのように参加するのかを考えてみましょう。

「ことばの典礼」：三つの朗読と司祭の説教からなる。
「感謝の典礼」：秘跡が行われる。この二つをはっきり分けて考える必要がある。

「ことばの典礼」への参加は、胃口が広く、いろいろな形で参加できる方法も比較的自由です。
「感謝の典礼」は、司祭が大きなウエイトを占めています。

「ことばの典礼」にどのように生き生きと参加するか。
その1 ことばを味わうための準備
「聖書と典礼」が配られています

すが、前もって読むようなことはほとんどないのではないのでしょうか。司祭の説教が良かったとか悪かったとかいう感想だけで与るのが一般的だったのではないのでしょうか。

もう少し準備をしてみてもどうでしょうか。ことばといふのは、一人ひとりが自ら捉え、反すうしなければ深い意味を知ることができません。ミサの始まる前に一度だけでも「聖書と典礼」を読んでみることはできないでしょうか。ミサの前の聖堂を静けさの中でことばに触れる空間としていいから良いと思います。

ミサの中でも聖書の朗読の後、味わうための「間」をとること、福音を読んだあと、すぐに説教をすのでなく読まれた内容をゆっくり黙想し、味わう時間をとる事を勧めます。

ミサが始まる前も「入祭唱」を歌い出す前にことばをゆっくりと味わうところからミサを始めようではないでしょうか。そのための雰囲気づくり、環境づくりが必要で

その2 キーワードを見つけてことばを聞く
ことばはいろいろな場面で聞くことができます。朗読、司祭の説教、奉献文や祈りのことばがあります。

前もってことばを味わい、準備が出来ていれば、司祭の話していることばは確実に心に入ります。「聞く」、「味わう」、そのためのポイントの一つは、「キーワード」を見つけておくことです。

カトリックの黙想は、禅で言う無我の境地とは違い、一つのことばを考えて、その想いを巡らすことです。
キーワードをひろい上げて黙想することで、もつとミサに生き生きと参加することが出来るはずで

小さなグループで何人かが集まった時、分かち合いをする習慣をつけることも良いでしょう。聖書の中から一つキーワードを見つけて分かち合ってみてはどうでしょうか。このことは共同体の信仰を高めていく大きな原動力になるでしょう。これを習慣づけたいら、生き生きとしたミサに参加する準備になると思います。

ことばの典礼において大事なことは、「ことばの味わい」です。その3 答唱詩編は元氣よく歌う
「答唱詩編」は、ことばを味わい、キーワードをつかんで、その中で、神への感謝を、神への賛美を、神に向かう自分の心の溢れを歌うのです。答唱詩編を歌う人はみんなが祈りをもって神に賛美をささげることが出来るように歌い方を考えてください。答唱詩編は祈りを助けることが大事なポイントです。

「ことばを味わい」、「間をおく」、「答唱詩編」のこれらが完成されることによって、本当に溢れ出る祈りが生まれます。
「ことばの典礼」においては、自由な裁量ができます。そのミサに集まった人の年齢や、グループの特質に合わせて工夫することが出来ますが、大切なことは、ことばが味わえるということ

「感謝の典礼」(秘跡の部)にどのように生き生きと参加するか
*ミサの意味と、その中で言われていることばの意味をよく知る
ここの主役は司祭です。司祭の必要性を強調する理由はこのことにあります。

秘跡の部では最初に「エピクレシス(聖霊の働きを求める祈り)」が唱えられます。そこで、「聖霊、来てください」と聖霊を呼び求めます。会衆も一緒に「聖霊よ、降ってください」と強く祈りを込めなければなりません。それから司祭は、最後の晩餐でイエスが「私の記念として行いなさい」と教えたことばを唱えます。そして、キリストの現存を示すようにパンを高く掲げこのパンは

キリストである」と宣言します。私たちはカトリックとしての信仰をそこで表明しなければなりません。祭壇で行われていることを傍観してはいけません。です。そのためにはミサの意味をきつちりと捉えるようにすべきです。

生き生きとして、「交わり」の中に入る
ミサは、ことば 秘跡 交わりへと進みます。第三奉献文を勉強すると、ミサの中のことばや行われていくしぐさの意味がわかってきます。司祭の動きと一緒に祈りを込めなければ、生き生きしたものになりません。

ミサは、司祭のことばを通して、キリストの体とそのパンの中に生まれ変わるといふ力があります。主日のミサに与るといふのはイエスとともに自分自身をささげることによって、この世界のどこかに新しい命を芽吹かせてくださるといふものなのです。それほど大きな意味と力があるので、このことを強く信じて自分自身をささげ、イエスのいけにえに徹底して与ることが基本です。教皇様は、「交わり」の聖性ということを強く主張しています。

自分を開いて、人と交わりながら信仰を深めていくということですから、ミサの中にもいろいろな交わりがあります。奉献文、平和のあいさつ、聖体拝領などです。小さなグループなら交わりの表現方法をいろいろな形でできます。



「活性化のための研修会」報告 (青森県・宮城県)

【青森県】

開催日時：2004年3月14日(日)午後1時～4時
参加者数：58名(9教会)

話し合いの主な内容

*ミサははげみ

*ミサは人々との対立を和らげてくれる。奉仕的になれる。

*司教様の講話の中の聖歌の音程よりリズムが大切」には

*司祭に頼ってきた中で、信者

の私たちももっと勉強の機会をもち、司祭でなければ出来ないことを除いては、もっと積極的に教会を盛り立てていくことが大切だと思う。

*ミサで使用した「聖書と典礼」を読み返す。

*聖体奉仕者として信者さんを訪問することがあるのだが、「聖書と典礼」を読んで差し上な工夫が必要。例えばギター

が感謝されている。それでもミサの時に朗読の当番として朗読するときには、「元氣よく、間

違えず」でただで満足しが、そこ

に居た人達に「伝える」ことが出来たかどうか。

*参加できない人について

「伝える」ことは難しい。

*ミサが終わった後の分かち合

いの形は、改まった席ではな

く、お茶のみしながら自然な形

での話こそが大切だと思う。

*ミサの前にパンフレットを流す。

*聖歌は宣教の大きな柱である。

大いに歌った方が良い。

*生き生きとした教会を、行事

の活発な教会と取り違えられが

ちである。

*自分のためだけでなく、も

と他人のためにミサに参加でき

ばいい。

*共に集い喜びある共同体にす

るためには、広い視野で外国人

を受け入れていったり、教会メ

ンバーの交わりに目を留めるな

どのアイデア、工夫が必要。

*信者だけではなく、未信者の

方も含めた聖書を読む集いなど

も良い。

*若い人を教会に取り込むよう

な工夫が必要。例えばギター

などで聖歌を歌うなど。

*生き生きとしたミサにするた

めには、まず自己の問題として

「心の準備」が必要である。

今後の課題・反省点

*参加できない人について

「伝える」ことは難しい。

えていくか。

*開催場所はそのままよいか。

青森だと八戸の人が参加しにく

い。

*事前の準備、打ち合わせ不足

。

*分かち合いの経験が無い人へードを見つけてからミサに参加の指導。

私の感想

参加者は皆元気になって各教*ミサの中でいろいろな役割を

会に帰っていったように思いま行っている人たちは、みんな生き

す。最後に新松さん(本町教会)生きとしているので、出来るだけ

の発案で「アベマリア」を全員で多くの人たちがいろいろな役割

合唱して終わることができ、これを担当するようにすればよいと

だけで今回の研修会の目的が達思う。

成されたと思います。このような*司祭の説教が胸を打つよう

機会を通して、各県の信者同士のものであれば、それが普段の

交わりが出来ればと思います。(里村智彦)

の中に生きてくる。当然ミサにも

生き生きと参加できるようにな

ると思うが、いつもただだいた。仙塩合同会議も含めて

聞けるわけではなたらよいか。

研修会そのものに対する評価

*分かち合いからは高い。特に、司教様の講演が「よ

得る事が多いとのかかった」「すばしかった」の

司教様のことを多数あつた。この研修会を今後

受けて、みことばをどう継続していったらよいか。

分かち合う機会を 小教区の参加者数にばらつき

検討したいと思つ。があり、参加を希望した人が人数

それを実行すれば制限で参加できなかった。

みことばをもつと 参加者の感想

味わえ、ミサが生き 活性化についてもっと話し合

いが必要。

参加者の名札があつた方がよ

い。では。

研修会の継続を希望する。

司教様の講話はともよかつた。ミサについてあまり知らずに

とつていたが、ミサに与る前の心

とつていたが、ミサに与る前の心

【宮城県】

2004年
2月22日(日)
午後1時30分
～4時30分

場所・カト
リック仙台司
教区センター

参加者数
121名

話し合いの
主な内容

*「聖書と典礼」を次週分も置

ておき、持ち帰って勉強したり、

*まず、カテドラルの元寺小路教

福音や書簡を前もって読んでお

会からいろいろなことを試みて

い。では。

研修会の継続を希望する。



司祭の説教が胸を打つよう

機会を通して、各県の信者

交わりが出来ればと思

の中に生きてくる。当然

生き生きと参加でき

ると思うが、いつも

聞けるわけではな

研修会そのもの

*分かち合いからは

得る事が多いとのか

司教様のことを多数

受けて、みことばを

分かち合う機会を

検討したいと思

それを実行すれば

みことばをもつと

味わえ、ミサが

活性化について

参加者の名札

い。では。

研修会の継続

司教様の講話

とつていたが

司牧評議会の報告

人権委員会の立ち上げと活性化研修会の実施評価を議題

仙台教区第5回司牧評議会定県では2月15日、宮城県で2月例会議が去る3月20日、教区セ22日、青森県では3月14日に開ンターで開催された。

議案は「人権委員会の立ち上げ」、その評価の発表と次回研修げについて」と、「司牧区活性化に向けての要望等が話し合わ化のための研修会実施評価」の二れた。各県からは、研修会参加者は新たな気持ちで小教区に帰つて

「この委員会は、カトリック教の日程(時間配分)の再考や研修の教えをきちつとわかつた上会後のフォローの必要性、伝達講いてどのように考えたらよいかいた。

鋭い感覚を養い、教会の教えを社各種委員会・活動部門から報告会に下ろし伝える役割を果たし 議案審議を終えての連絡・報告ていく(溝部司教)という理解のとして、教区の各種委員会や活動下に、原案の通り、「司教直任に部門からの一年間の報告があつよる複数の委員で構成する形でた。まず「施設整備協力制度」の立ち上げることに異論なしとし現況報告とこの制度を利用するて承認された。また、この委員会ときの手続き等の説明、次に「司

で扱ってもらいたい問題として、祭召命活動」及び「青少年育成活老人問題や子供の虐待問題、外国動」の動き、司教館建築の決算の籍の人々の問題、DV(ドメステ概要報告、最終の決算は3月末なイック・バイオレンス)等々、いので各教会への報告はその後とくつか挙げられたが、それらは司なる、教区広報委員会からの報牧評議会役員会で優先順位等を告、そして各県の動きや県大会の考え、整理して、委員会に届けら予定等の発表、最後に司祭評議会れることになる。

司牧区活性化のための研修会 から「今年10月のメキシコでの

今年度の、教区活性化のためのお知らせがあつて閉会となつた。て立てられたもので、原則としした参加」というテーマで、若手期で司牧評議員が新しく選任さ

れた。メンバーの氏名と選出母体は次の通り。(敬称略)。

職務から 教区長：溝部脩司教 司教総代理・事務局長：平賀徹

夫 教区会計：梅津明生 青森県 信徒代表：菊池成寿、

里村智彦 司祭代表：小松史朗

岩手県 信徒代表：伊藤宏子、 関谷秀雄 司祭代表：フェリ

宮城県 信徒代表：伊藤雄基、 佐々木英二 司祭代表：小野寺

洋一 福島県 信徒代表：佐々木善英、 菅野 明 司祭代表：板垣 勤

修道者代表：小針千代、春山智子

以上のうち職務からの者以外に、役員として信徒3名：里村

智彦、伊藤宏子、伊藤雄基 司祭1名：小野寺洋一、修道者

1名：春山智子の合計5名が選ばれた。

仙台教区司祭評議会は「仙台教区の全司祭が、教区長と共に

持つ共同責任を果たすために、 教区として必要な種々の事柄に

ついて検討し、具体的な方策を 探求して教区長を補佐すること

及び教区内の全司祭の一致と支 え合い、相互養成を図ることを

目的とする(規則第3条)とし

去る3月までの司祭評議会例

会で、主な事柄として次のような見て、宣教の使命を果たすことを

「司祭不在のときの主日の集されていけばよいかを検討する。

これは今まで2年間かけて検討会」が論議を重ねて提出した答申

を行う場合には、事前に司教と相ていくことを図るもの。

談することを要し、またしつかり 仙台市の八木山教会新生(2

準備をしてから行うこと、として001年9月)、青森市・篠田教

いる。近日中に司教書簡として各会の閉鎖(2001年12月)、司

教会、修道院に届けられる。 教館の建築(2002年1月)

福島県いわき市の教会再編等々の問題も議案にかけられた。

について：いわき市には4つの その他、一回の例会での決定が

小教区教会があつたが、平教会の難しく、継続審議とされる問題が

を考ふる動きが起り、ドミニコ 尚、この4月から司祭評議会の

会と各小教区および教区とで話メンバーが新しく任命された。

任期は3年。

会長は教

区長の溝部

脩司教、職務

司祭評議会の動き

し合つた結果、2004年4月1

日付で、「いわき教会」として一上のメンバーとして平賀徹夫司

つの小教区に統合することが決教総代理・事務局長(梅津明生教

定された。現在の平教会の聖堂を 区会計)。

建て直し、新しい教会を建築する 司祭団から投票で選出された板

垣勤、アントニオ・ツゲル、佐々

ことになる。

仙台教区と韓国の大田(テジ)木博、首藤正義、C エメ・ボル

ヨンの契約締結：今年4月から仙司教直任としてトマス・パウエレ



た。(名前はアントニオ・ユン・上の合計で

ヨソク神父、仙台中央地区に派11名の構成

塩地区ないし仙台圏を総合的に

洗礼の恵み 共同体の新たな仲間

今年も復活祭に洗礼の恵みを受け、キリスト共同体の仲間に加わった方々がいらっしやいます。洗礼を受けた方々の中から何人かの方に、次のような内容でアンケートに答えていただきました。

理由など 洗礼を受けるにあたって影響を受けた人 家族の信仰生活 洗礼を受けることが決まってから何か変わったことがあるか これからの決意など

【四ツ家教会】

掘間 慶子(ほりま けいこ)さん(47) マリア・ベルナデッタ

愛の学習をしながら、愛なる神を感じたいという思いにかられた。

ダナン神父様・梅津神父様・Sr.佐々木康子さん・深澤修子さん・山影悦子さん

家族の中で信仰生活を送っている人はいません。

お恵みを日々いただいている、祈っていたらと感ずる。

私はとても我がままで自分自身を愛することが出来ませんでした。私はこれから自身を大切に生きていきたいです。

高杉 雄仁(たかすぎ かつみ)さん(56) ダナン

2002年秋、盛岡で行われたセルフ・エンカウンターに参加して

ダナン神父・梅津神父 妻と共に受洗

一日を大切に

高杉 龍子(たかすぎ りゅうこ)さん(48) マリア・マグダ

レナ

白百合学園で学んだこと

故Sr.諸遊素子・ヨセフ・フーゲントブレル神父 ダナン神父 夫と共に受洗

心の安定 落ち着くまでに行きつめたどり着きました。

祈りの実践に生きる。

【野田町教会】 佐藤 秀明(さとう ひであき)さん(58) ヨセフ

妻は、高校時代にカトリックの洗礼を受けておりましたので私は結婚式を野田町教会で挙げました。妻がお世話になっていてるコングレガシオン・ド・ノールダム修道会の皆様、信者の方々と自然に接することができ、優しさに触れることができました。特に私が入院し手術を受け

た時は、心から励まし、応援してくださいましたことに心動かされ、教会、修道院に行つて神様の教えを学ぶようになりました。

野田町修道院 Sr.秋山 妻・娘2人が信者です。

Sr.秋山から洗礼のための講義を受けるようになり、毎日聖書を読むようになりました。生

活の中でも祈ることが少しずつできるようになりました。

神様から、たくさんの恵みが受けられるように、毎日の生活を送っていききたい。

【八木山教会】 黒羽 真祈(くろは まき)さん(29) マリア・小さき花のテレジア

自分の力ではどうにもならない状態の中で行き詰まり、自分の進むべき道の選択に困っていたところに神様が新しいもう一つの進むべき道を与えてくださったこと。

いなかだった信仰心の薄い自分がこんなにも神様から愛されていたことを感じ、自分も神様のことを心から慕っていききたいと思つた。

代母の野田愛子さん。実は私は野田さんの勤める会社の客でした。元寺の教会でばつたり会つて以来野田さん一家にいろいろ面倒をみていただきました。教会のいろんな活動に誘っていただいたおかげでたくさんの方との出会いがあり、教会生活の大切さを学ばせていただきました。

家族の中で母と私だけが信者ですが、家族は信仰を持つことをそのまま受け止めてくれています。

心が穏やかになった。自分の考えだけで行動していた今までは違って、全てを神様の御手にゆだねまた全てを素直に受け

入れようという気持ちを持てるようになった。

信仰生活が始まったばかりで今は喜びに浸っています。悲しみや試験のときでも神様が自分と共にいてくださっていることを感じて生きていきたいです。

教会へ11時出発。四ツ家教会にD神父様の荷を下ろし、K助祭の荷のある青森市の浪打教会へ15時出発。浪打教会で荷を積んで、盛岡の四ツ家教会へ20時出発。四ツ家教会へは、23時過ぎ到着。各自の荷物を持って各自のベッドへ出発。今日はここで一泊です。

司祭叙階を前に

川崎 忠紀 助祭

期間限定舟山運輸？
この時期になりますと、入学、進学、転勤、心機一転などでお引越される方も多いことと思ひます。わが仙台教区の神父様方も例外ではありません。

4月1日 朝、9時よりK助祭の荷を下ろし仙台市の司祭の家へ12時に出発。元司教総代理のT神父様の荷を下ろし今回の舟山運輸は、無事任務を終えて解散となりました。

何かとお金がかかるこの時期、教区の財政難を肌身で感じている元教区事務局長のA神父の熱い思いによつて、このたび期間限定の「舟山運輸」を立ち上げることとなりました。

彼らの上に、そして、これから新しい場所で生活を始める皆様の上に、神からの祝福と恵みがありますように。

A神父を会長とし、F神学生が社長、社員はS神学生とK助祭の4人です。3月30日から4月1日までの期間限定で、お客様は5名の神父様方。

私事ですが、これまでにお祈りなど様々な方面から支えてくださった皆様に感謝いたします。叙階後どちらで奉仕できるか分かりませんが、イエス様のため

3月30日 まずは肩ならしに、韓国からいらしたY神父様の司教館に送られていた荷を元寺小路教会の3階に運びます。

【川崎助祭は5月5日、カテドラルで司祭に叙階されます。】

3月31日 朝 司教館からA神父様の荷を積んで築館教会に向かつて8時30分出発。築館教会で、信徒の皆様の協力の下A神父様の荷を下ろし、D神父様の荷を積んで盛岡市の四ツ家



3・20世界同時

反戦行動に参加して

2003年3月20日、イラク戦争から1年、いまだ戦争は終わりを告げる事ができません。これを憂え、全世界統一反戦行動の呼びかけにより、世界60カ国200万人、日本では13万人の人々がさまざまな行動に立ち上がりました。東京・日比谷公園に6万人、芝公園には3万人が参加。ここ仙台に於いては「イラク派兵反対・平和憲法擁護宮城県集会」が、3月20日(土)



開催されました。

仙台市役所前・市民の広場は、思想・信仰を超えて政治問題に危機感を覚えた方々が駆け付け、4千人以上の人々・人で埋め尽くされました。

この日、イラク戦争を中止して欲しいとの願いが世界中の人々と共に、祈りのことばとなつて全世界を駆け巡りました。キリスト者として、人の「いのち」が踏みじられる戦争はいかなる理由があつても、NO」と叫びたい。手にロザリオを持ち、祈り、「アッシジの平和の祈り」を参加者に配つておられた

方、慣れないデモにたくさん、想いを持った方々が参加してくださいました。戦争は「人間の業」。平和は正義の業・愛の実り」。主のみ国が来ますように。カトリック正義と平和仙台協議会

芳賀 ヒロ子

典礼の霊性を深める

神学顧問 佐々木博

救いのわざの実現である典礼

(『典礼憲章』6項参照)

典礼活動において、キリストご自身が、救いのわざを行われます。そのわざに与るために、まず、わたしたちは、洗礼によって、キリストと共に罪に死んで葬られ、新しい命に生きる者とされるのです(ローマ6:3-4参照)。また、聖霊によって、神の子としていただき、真の礼拝者になるのです。ですから、イエスの死と復活を、ミサにおいて記念し、その恵みに与ることが

十字架上で、ご自分を神の小羊としてほふられたイエスは、正に大祭司として、ご自分を天の御父にささげるのです。この救いのわざの現在化であるミサにおいて、わたしたちもキリストと共に、自身を供えものとして、御父におささげします(『典礼憲章』48項参照)。

典礼におけるキリストの現存

(『典礼憲章』7項参照)

ミサの主役として現存しておられるキリストは、叙階の秘跡を受けた司祭のうちにもおられます。特に、聖体のパンとぶどう酒の両形態のうち

は、他の諸秘跡においても、ご自身が執行なさるのです。また、教会で聖書が朗読されるとき、キリストご自身が語られるのです。「二人または三人が、わたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」(マタイ18:20)と、約束なさつたキリストは、典礼共同体の中に現存しておられます。ですから、わたしたちは、典礼活動において、キリストの祭司職に意識的に、行動的に与れるのです。



<シリーズ> 188名日本殉教者列福の推進 天草の殉教者、荒川アダム

溝部 脩

荒川アダムはいつの時からも、天草志岐教会で多くの奉仕の仕事をしてきた。1614年幕府の命令で全ての司祭たちが海外に追放された時、天草の教会の世話をする最後の神父はこのアダムに任せられた。彼は70歳であった。司祭不在の教会の管理から洗礼の執行、病者訪問、死者の埋葬、葬儀などできる限りの仕事をこなしていた。特に大きな仕事は信者の世話であり、最大の奉仕は主日の奉仕であった。集会祭儀を行い、信者を霊的に高めるように最大の努力を払っていた。しかし、迫害の手は天草全土に及び、まず目をつけられたのは、教会の中心人物である荒川アダムであった。彼は捕縛され、尋問を受け、拷問された。しかし、この老人はいかなる拷問にも決して信仰を捨てるとは言わなかった。ついに役人は業を煮やし、せめて孤独の中に閉じ込めれば失望するだろうと考え、一軒の家に幽閉した。彼はこれを一人で神を想う良い機会と考え、益々意気を高めた。これでもう仕方がないと諦めた役人は、彼に死刑を言い渡した。1614年6月5日早朝、朝まだ暗い内に連れ出され、刑場で首を切られて殉教した。遺体には石がくくりつけられ、海に沈められた。荒川アダムは、迫害にある天草の信者の模範となり、励ましとなった。

天草の殉教者、荒川アダムは、教会の中心人物であった。彼は捕縛され、尋問を受け、拷問された。しかし、この老人はいかなる拷問にも決して信仰を捨てるとは言わなかった。ついに役人は業を煮やし、せめて孤独の中に閉じ込めれば失望するだろうと考え、一軒の家に幽閉した。彼はこれを一人で神を想う良い機会と考え、益々意気を高めた。これでもう仕方がないと諦めた役人は、彼に死刑を言い渡した。1614年6月5日早朝、朝まだ暗い内に連れ出され、刑場で首を切られて殉教した。遺体には石がくくりつけられ、海に沈められた。荒川アダムは、迫害にある天草の信者の模範となり、励ましとなった。



天草の崎津天主堂

各地から

(滝田)

青森 松ヶ丘教会

高齢化の一端を辿るハンセン病療養所の中の巡回教会として、わが教会も必然的に高齢者の信者で占められ現在22名(男4名、女18名)の教会員で構成しておりますが、ミサ執行その他の運用面で高齢者ばかりの故に何かと支障をきたすことが多くなりました。

しかし、母教会である本町教会挙げての兄弟的ご支援を頂いて、私たちは従来より増して限らない感謝のうちに主キリストの愛に抱かれつつ、信仰生活を送らせて頂いております。

本町教会では、昨年夏、会報「ひろば」で「松ヶ丘教会を支援するボランティア」の希望者を募集しましたところ、40名近い方々が応募してくださり、昨年10月1日より四班に分かれた支援隊の方々が、交代でミサの聖書朗読その他の役割を果たして下さっています。

このことは、療養所教会の歴史にまた一筆を書き加えるべき意味を持つ新しい展開として、私たちは大歓迎すると共に、更に有終の美を汚さぬ信仰を生き抜く決意を固めております。

松ヶ丘教会のミサは、毎月第二、第四土曜日の午前10時から行われていますが、寝たきりなどの病床者の聖体拝領は第二土曜日の午後となっております。

宮城 八木山教会

溝部司教様が着任された翌年の1月、教会聖堂が焼失した。

信徒たちは教会の必要性を感じて教区に再建の許可を要請した。信徒の熱意のいかあって、司教様から「再建でなく新生を」という事で建設を許可された。その後、この小教区共同体は、「新生をテーマとし」拠点としての教会」を目標に刷新を続けている。



今年、神は新しい友人を私たちの共同体に与えてくださる事になった。半澤さんご一家6人と黒羽さん、7人が復活徹夜祭に洗礼を受ける事となった。この小教区の幼稚園の存在と、土曜学校の先生方の努力によるものだが、そこにこの小教区の共同体の交わりと一致、愛をかいま見る思いがしている。青少年の活動は、小教区にとどまらず大きなうねりとなって動き始めている。

この小教区の信徒たちも、今や自分のタレントを見つけて、祈り、分かち合い、派遣されて行く事を意識し始めている。すごいことである。

しかし、私たちこの小教区の

信徒は恵まれている。あの聖堂を失った時の状態にいつでも帰れるから。そして、それを原点として、祈り、活動することができるから。神は私たちに、信仰のモチ方を自ら示されたと感じている。

(竹内)

福島 湯本教会

湯本教会の司祭館には、温泉が引かれています。1952年といえ、今より53年前になるのですが、1967年に帰天されたダビオ神父様は、当時炭坑と温泉の町として栄えていたこの地を福音宣教活動の拠点として選ばれました。情熱を持って、ロザリオの聖母教会を献堂いたしました。炭坑関係の信者が多く、教会はにぎやかでした。献堂後数年経って、司祭館が完成したのですが、当時、豊富な温泉を町の全戸へ給湯する公的事業に力が注がれていました。ダビオ神父も、この事業に協力し、司祭館に温泉を引いたのです。現在も使用していますので、かなりの年数が経ちました。所用でいわきを訪れる神父様方は、司祭館にお泊まりになり、温泉で心身を癒すことを喜んでおられます。お泊まりの夜は、神父様を囲んだ交流会を開き、談話の中からいろいろ学び取っています。日曜ミサも共同司式となるうれしい出会いも今



輪で小規模に催しました。写真は、教会を訪れて下さった方々への記念としてお贈りするもので、チェスワフ神父様のアイディアになるものです。湯本教会は、4月1日から教会再編により「いわき教会」となりました。(高木)

落成祝別式

オタワ愛徳修道女会

日本地区本部修道院 仙台市宮城野区にある通称「光ヶ丘」の一番高いところにオタワ愛徳修道女会の本部修道院がある。光ヶ丘スヘルマン病院、カトリック東仙台教会、司祭の家、司教館とここ光ヶ丘にはカトリック関係の施設が集まっている。

3月21日(日)午後1時30分、新築されたこの修道院の落成祝別式が溝部司教の司式で行われた。

聖堂で行われた式の中で、司教は聖堂、建物内部、祭壇に聖水を注いで祝別した後、「大切なのは、この建物に住む人間で

まで何す。キリストを伝える人、喜び度かあを周囲の人に伝える人になるようにしてください」と呼びかけた。2002年9月に、献堂50周年記念行事を内

心で使命を果たしていきたい」と感謝の言葉を述べた。建物の総面積、1284.65m、一部2階建て、聖堂、講話室、食堂、厨房、ゲストルーム等の他、修道女室が16室あり、ガラス張りの回廊が中庭を取り囲み、【写真】モダンなデザインの建物は春の日差しをたっぷり採り込んで輝いていた。



活動紹介

パッチワーク毛布の会

(巨理教会)

インドの路上生活者にパッチワーク毛布を送る仕事を17年になります。送った毛布は今年2月で1120枚になりました。

毎月一回の例会を持ち、年四

私の気分転換

Br.フィリップ(ラ・サール会)

修道士も気分転換が必要ですか？ もちろん私たちにもストレスがあります。仕事疲れ、団体生活の緊張、人間関係の衝突、責任の重荷などからやはり時々くつろぐ必要があります。

カナダから46年前に日本に来て、すぐに日本の自然にほれました。霧の中にそびえ立つ山々、青々とした田園風景、川に沿っている細道、町のざわめきから離れたところ、疲れた時に行きたいところ！

夏、秋、山に行つて散歩する喜び、森林浴、紅葉を浴びて、たまには高い峰も目指して登ります。仲間を連れて行くこともありますが、一人で行く時もあります。幸いに仙台近郊にはそうした避難場所がたくさんあります。冬？

回、家で作った毛布を持ち寄り、船便でカルカッタの神の愛の宣教者修道会へ送っています。

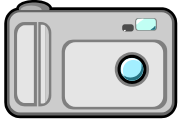
この毛布は古い木綿の布を30センチ角くらいに切り、色彩よくミシンではぎ合わせ毛布ぐらいの大きさの三枚あわせにしたものです。インドからの手紙には「私たちの施設は病人達であふれていますすが彼らが再び路

冬はアルペンスキー、歩くスキー、かんじぎで冷たい風に向かって歩き、雪の夢幻のように素晴らしい霧氷や樹氷。特に山形蔵王の森を眺めてリフレッシュ。

ほとんどが日帰りですが、その地方に温泉があれば最高ですね。

「目を見たことを忘れるな」(申4 9)。見た景色を忘れないようにいつもデジカメを持って出かけます。帰ってから写したものをPCにいれて保存します。暇がある時アルバムを作つて仲間たちに送ります。

はがき、グリーティングカードなどを作るときはこの写真を使います。時々その写真に当てはまる聖書の言葉を見つけます。特に詩編の中から。そのカードを配ることによって、多くの人たちにきれいな花、素晴らしい景色を分かち合う楽しみもあります。



上生活にもどる時、必要なこの毛布を持たせてやります」とか「貧しい少年達が仕事にありつき遠い地に行く時2枚ずつ」家族的な交わりを持つ貧しいスラムの人々に「ハンセン病センターの患者さんに」と具体的に書かれてあり、私達の仕事が多くの人々に必要とされていることを痛感し、「人のためにお役にたきたい」との思いから出発した会の主旨に少しずつ近づいているようです。(代表 小林つぎ子)

修道院紹介

聖母被昇天修道会

青森修道院

聖母被昇天修道会は、1853年9月8日現在総本部のあるカナダ・ケベック州ニコレット

近郊のセン・グレゴワールで、主任司祭ジャン・ハーバー神父によって創立されました。ハーバー神父は、生粋の教育者であり、子女の教育が教区民のキリスト者としての養成のための土台づくりになるという確信をもつて、教育修道会の創立を決意しました。



して若い人々への教育を続ける一方で現代社会の抱える問題にも、積極的に立ち向かう姿勢を持っています。青森修道院は、日本での最初の修道院で、現在地区本部が置かれています。日本地区は青森県と埼玉県に、短期大学一つ、高等学校二つ、中学校一つ、幼稚園三つからなる教育事業を推し進めています。

過去70年の間に、神の摂理によって実現したこれらの事実を前にして、私たちの心は希望でふくらんでいます。日本地区は、この希望を支えとして「マリアとともに、神にすべてを賭け、教育を通して神の愛を知らせる(会憲)」ために、日々励んでいます。(成田廣子)

寿庵祭のご案内
カトリック水沢教会
日時 5月23日【日】
場 所 ミサ 午前10時より
水沢市 福原 寿庵廟前
講話 溝部脩司教
テーマ「ペトロ・カスイ岐部と寛永年間の水沢地方」

【訂正とお詫び】156号1ページの写真は盛岡上堂教会ではなく五戸教会のものでした。